



ま ちかご インタビュー

本当にこの道路が必要なのか

〓 幹線道路等整備事業 〓

町では、緊縮財政の中で、地域振興と雇用の創設をはかるため、国の平成21年度第2次補正予算による補助金や東京電力(株)広野火力発電所6号機の電源立地促進対策交付金を活用した幹線道路等の整備を進めています。

今回は、こうした町の道路行政について、町民の皆さんにご意見を伺いました。



大和田 美江子さん
(下北迫・新町)

車社会の現代にあつて、道路整備はたいへん重要な事業だと思っています。

町として、幹線道路の整備はたいへん進んでいると思いますが、一方で、生活道路については対面通行のできない場所も見受けられます。



拡幅工事が計画されている町道下浅見川線

緊急時の車両通行等がスムーズに行なわれるよう道路整備は必要だと思っています。



赤津 清さん
(上北迫・二ツ沼)

町内には4本もの幹線道路が走っています。

今だ未整備の道路もあると思いますが、100年に1度という大不況の中、また、数年後には助成金や固定資産税の減少など、町財政は憂慮すべきものがあります。

「本当にこの道路が必要なのか」その理由を住民によく説明し、無駄を排除し、子孫の代まで町財政が健全であることを願ってやみません。

編集後記

梅雨明けのないまま夏になり、秋の実りが心配されましたが、光り輝く稲穂に癒される中、依然として景気低迷が続く、減り続ける税収、増え続ける滞納額、そして効率よく次元の高い行政サービスが求められる一方、税負担の公平性が問われ、将来の町づくりに向けて問題提起の多い20年度決算議会が終わりました。

国では政権が代わり、「不安と期待」が混在した中で、新しい国づくりが始まりました。

持続性のある政策転換をはかり、暮らしの安定はもとより、子どもたちを育てやすい環境づくりのために、確実な景気回復策を望まずにはいられません。

(鈴木紀昭)



次の定例会は12月です

- 発行・編集責任者 議長 坂本紀一
- 広報委員会 委員長 中津伸一
- 副委員長 渡邊正俊
- 委員 鈴木紀昭
- 委員 鈴木正範
- 委員 渡辺久長
- 委員 塩 史子
- 委員 遠藤 智

